

筑波大学新聞

第305号

編集責任 筑波大学新聞
編集代表 福原直樹
TEL: 029(853)2040-6699
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所 筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

学長予定者	「国際性の日常化」を
ラジプロ	NHKラジオ第1公開生放送
バレー	男子7年ぶりに優勝
ラート	男女共に総合優勝
柔道	被災地で子供達に指導
附属病院	新棟「けやき棟」完成
2	
3	
8	
9	
10	
11	
5	ミニ特集
	筑波大学発 スマートフォンアプリ特集
6,7	特集
	退職教員インタビュー 研究人生の歩み

学長選考会議
学長選考会議が1月29日「国際性の日常化」を
に開かれ、永田恭介教授(医
学医療系)を学長予定者に
決定した。任期は4月1日
から2年間。
永田教授は現在59歳。社
会環境医学専攻長や生命シ
ステム医学専攻長などを兼
任し、現在は学長特別補佐
として学長補佐室長を務め
ている。
永田教授は「教育の実質
化の推進と学生支援の充
実」「研究大学院大学とし
ての自覚」と語り、(2面に
関連記事)

20歳の記念に父
親から金色のもの
をもらうと幸せに
なれる。母か
らそんな話を聞いた
ことがある。そ
の言葉通り、成人式
の日、金のネックレスを父
が贈ってくれた。祖母に
人には晴れ着も用意して
もらった。それに身を包
み、ネックレスを付け、
成人式会場へと向かった
▼「おとなになったこと
を自覚し、自ら生き抜く
うとする青年を祝う励ま
す」というのが成人の日
の趣旨だ。しかし成人と
しての自覚よりも、まだ
また周りに支えられては
かりの自分を再認識する
日となった▼人材不足
だった40年以上前の高度
成長期、中学、高校の卒
業生は「金の卵」と呼ば
れ、企業の貴重な戦力と
された。少子化が叫ばれ
る一方で若者の就職難が
続く現在、私たちの色は
果たして金色なのか、本
来の卵のままの白色なの
か▼すでに卵の殻を破
り、社会という大空へと
羽ばたいた同世代もい
る。そこには無限の可能
性が広がっているのだろ
う。そして困難も。だが、
ただ恐ればかりはいら
ない。気づいて空を飛
ぼうか、空には何があ
るのだろうか……。殻の
中で考えることはたか
さんある。考えれば考え
るほど、また見聞世界へ
の期待も膨らむ▼社会人
としての門出の日まで、
あのネックレスは付けず
にしておこう。その日が
来るまで、あの金色に負
けないように、自分を磨き
上げていこう。

後半持ち前の「粘り」見せる

【国立競技場で鈴木拓也II人文学類1年、市原ひかりII社会学類2年、大学日本一を決める第49回全国大学ラグビー選手権大会の決勝が1月13日、国立競技場(東京都新宿区)で行われ、本学は史上初の大会4連覇を目指す帝京大と対戦。22-39で惜しくも敗れた。だが国立大学としては初の準優勝を果たし、第50回日本ラグビー選手権大会(2月2日開幕)の出場権を獲得した。本学は1月2日に開催された準決勝で東海大と対戦、後半16点を逃がす粘りを見せ、28-26で初の決勝進出を決めていた。(8,9面に関連記事)

大学ラグビー選手権大会 国立大初の準優勝



撮影=平嶋健人/本紙記者

後半33分、トライを狙う本学選手達

前半8分に帝京大に先制のトライを許す苦しい立ち上がりとなった。11分には片桐康策(体育専3年)がペナルティゴールを決め、流れをつかみかけたが、帝京の堅い守りを崩せないまま。ミスも目立ち、19分にはサイドから攻め込まれると一気にトライを奪われ、3-15と引き離された。だが、34分、俊足の福岡堅樹(情報1年)が中盤でパスをもち、前に蹴ったボールを自分で取りそのままたり。続けて片桐がゴールを決め10-22で前半を折り返した。
後半、風下に立つ不利な状況もあり、10分、16分、30分と立て続けに3つのトライを許す厳しい展開となった。このため一度は10-39と引き離されたが、本学は準決勝でも見せた持ち前の「粘り」をここで発揮。
後半、風下に立つ不利な状況もあり、10分、16分、30分と立て続けに3つのトライを許す厳しい展開となった。このため一度は10-39と引き離されたが、本学は準決勝でも見せた持ち前の「粘り」をここで発揮。
後半、風下に立つ不利な状況もあり、10分、16分、30分と立て続けに3つのトライを許す厳しい展開となった。このため一度は10-39と引き離されたが、本学は準決勝でも見せた持ち前の「粘り」をここで発揮。

6建物耐震改修工事

研究室の移転先に不安

人文社会学系棟など本学の6建物で、耐震・老朽化対策のための改修工事が4月をめどに始まる。耐震強度が低い建物のうち、開学以来、未改修の人文社会学系棟、理科系A棟、生物・農林学系C棟、自然学系棟、医学系棟、2棟の6棟が対象。人文社会学系棟、医学系棟は建物等を3部分に分け、1年ごとに各部分を改修していく計画。2棟は建物等を2部分に分け、2年で工事を完了する計画だ。だが、研究室などの移転先はまだ決まっておらず、当教員の研究や論文指導などに支障が出ないよう調整が必要となっている。
国立学校施設の耐震化のための政府予算(約43億円)が認められ、実施する。本学の場合、例年は国の予算の関与で改修工事は年に1、2件しか行えず、耐震強度が低くてもなかなか工事ができずいた。だが今回政府の予算がついたため6棟が急ぎ、改修工事されることになった。
現在、各支援室と各棟の代表、施設部が、研究室の移転先などを調整している。工事の青写真が3月末までに描かれる予定だが、研究室の移転先がまだ未定なことに対し、飯村信雄・施設企画課課長は「移転先としては、全学の共同利用スペースや学外施設を借用することも検討している」と話している。
一方、工事の目的について飯村副課長は「安心・安全を目標とした施設にする。だが、耐震改修をしたからといって、地震で壁にひびが入らないわけではない。地震が起きたら、教員などの指示に従い、落ち着いた行動をとることが大切」と話している。

自転車にICタグ導入

本学で検討 全国初の実施に期待

学内の自転車問題を解決するために、本学で来年度中をめどにICタグを用いた自転車登録制の実施を検討していることが、1月31日までに分かった。ICタグを使えば簡単に自転車の所有者が特定でき、自動的にメールなどで警告できるため、駐輪マナー向上や盗難防止などの効果が期待される。実現すれば全国初のICタグを用いた自転車登録制の実施例になる。(鈴木拓也II人文学類1年)

本学ではほとんどの学生が自転車を利用しており、学内には少なくとも5000台がある。だが点検や盗難時の避難経路の確保など、学内には少なくとも5000台がある。だが点検や盗難時の避難経路の確保など、学内には少なくとも5000台がある。だが点検や盗難時の避難経路の確保など、学内には少なくとも5000台がある。

ICタグの利用を提案した有志の一人、岩本浩二講師(企画室)によると、昨年(白岩善博教授(生環専)や佐藤忍教授(同)、鈴木勉教授(シス情系)、足立和隆准教授(体育系)らがアイデアを出し、学内の自転車環境ワーキンググループを中心に、制度導入が検討されてきた。
導入が予定されるICタグは実費数百円程度で電源を持たない小型のもの。学生は利用するデータを学内に登録し、配布されたICタグを自転車に取り付ける。迷惑駐輪などの場合、学内の担当者がこれらの自転車計測器で一斉にチェック。所有者にメールなどで即時警告できる。
当面は、学生への注意などのマナー向上が主な目的だが、将来的には全学の自転車数の確認や、学内にテナを設け、盗難された場合、盗まれた自転車などのようなルートで持ち去られたかの把握などもできる

ようになる。また外来者や留学生などへの自転車貸出制への応用も考えられる。同講師によると、ICタグによる自転車登録は過去、滋賀県内で実験的に行われていたが、実用例は全国で初めて。大学の自転車登録制としては、本学が2011年から体育専門学群でICタグではなくシールによるものを実施。東京大学では有料(学生は年間1000円)の入構許可制を行う他、茨城大学なども登録制を実施している。
同講師は「自転車問題解決は開学以降40年来の課題。早急な対応が必要。ICタグを用いた自転車登録制は、来年度早々に実施したい」と話す。一方、「タグ付きで、そうでない自転車が混在すると効果が薄れる」とし、学生に理解と協力を求めている。



さまざまな種類のICタグ。コイン大のタグもある(右左)

お知らせ

2月28日の汎用サーバー(sakura)の全サービス終了を受け、筑波大学新聞のメールアドレスが変更されます。今までのアドレスは使えなくなりますので、ご了承ください。
旧アドレス = shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
新アドレス = shinbun@un.tsukuba.ac.jp
筑波大学新聞では皆様の声を募集しております。取材してほしいイベントや団体、オピニオン面の投稿などは、こちらのアドレスで受け付けております。

永田恭介教授 記者会見

「国際性の日常化」を

学生に「自立性」期待



記者会見に応じる永田教授

4月から新たな学長として、後2年間の任期で、主に次の4課題について積極的に取り組むとしている。

永田教授は「国際性の日常化」をキーワードに、学生や教職員の国際的な活動を支援したいと考えている。

学としての研究力の向上だ。永田教授は研究組織の強化と共に、研究支援のシステムの大幅な刷新も検討。

第7回「科学の芽」賞

小・中・高生が研究発表 大人顔負けの内容も

小・中・高校生を対象に優れた科学や自然現象についての研究を発表する、朝永振一郎記念第7回「科学の芽」賞表彰式・発表会が、昨年12月22日、大学会館講堂で行われた。



清水副学長から表彰状を受け取る高校生

関節リウマチ 炎症を制御する物質発見 難病治療に大きな進歩

関節に炎症が起き、腫れが1年以上以内に関節炎を発症したことから、TIAARPと病因に何らかの関わりがあることを突き止めた。

国際共同研究チーム 2種類の藻類のゲノム解読

植物の進化の謎に迫る



ゲノムを解読した2種類の藻類

葉緑体の進化の鍵を握る2つの藻類のゲノムを、石田健一郎教授(生環系)らが参画した国際共同研究チームが初めて解読した。

このことによって、植物が葉緑体を持つようになった。今回ゲノムを解読した2つの藻類は、2回の細胞内共生を経て、普通細胞内共生によって取り込まれた真核生物の核は消失する。

精子の方向決定の仕組み解明 生命の原理に一步近づく 不妊治療につながる

精子が卵子に向かって泳いでいく際、その方向を決める仕組みの一端を解明した。

藤井善隆二元講師 60本の論文に不正

本学は昨年12月、藤井善隆二元講師が執筆した論文について、不正があったことを確認したと発表した。

新人記者募集 "今"を伝えるのは、あなた 毎週月曜日18時30分 共同研究棟A104 TEL:029(853)6699 MAIL:shinbun@un.tsukuba.ac.jp

ロボット実証実験

ホテルの業務を支援

交流のきっかけをつくる

鈴木健嗣准教授(シス情)と内山俊朗講師(芸術)らの共同研究グループがホテルレム秋葉原(東京都千代田区)で入型のロボットを用いた実証実験を行っている。研究のテーマは「公共空間における人とロボットによる関係のデザイン」。ホテルという不特定多数の人々が行き来する空間で、ロボットと人がどのように関わらなければならないかを検証している。

を与えてくれるロボットよりも、関心を引くというところが分かった。中には30分間もロボットを見ていた人もいたという。

高橋教授提案の研究を計画

日本初 宇宙でマウスを飼育

独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)は昨年11月、国際宇宙ステーション(ISS)の日本実験棟「きぼう」で、本学の高橋智教授(医学医療系)が提案した「宇宙での生きマウスの長期飼育実験」を実施する計画がある、と発表した。宇宙空間でマウスを用いた長期の実験が行われるのは、日本の宇宙開発史上初となる。



「ラジプロ〜ラジオをプロデュース〜」 NHKラジオ第1本学から公開生放送

NHKラジオ第1の番組「ラジプロ〜ラジオをプロデュース〜」本選の公開生放送が、昨年12月24日に大学会館講堂で行われた。本学からはT.H.K.筑波放送協会と野村祐一郎さん(10日3年)が本選に出場。会場には約2000人が訪れた。

T.H.K.に感謝状贈呈

きらめる主人公が、たった5分で魔王から世界を救うという設定。限られた時間を大切にしようということ、ファンタジー要素を含めて伝えた。

最優秀賞に選ばれたのは東北大学学友会放送研究部の「基礎死語A」。現代日本で使われなくなった「死語」を扱う番組で、今回は「チョペリバ」という死語を紹介した。死語の歴史や意味、実際の会話例を淡々と紹介するなど、非現実的な内容が評価された。

人々をつなぐ応援

応援団WINS「桐華祭」観客に元気を送る。応援団WINSによる公演「桐華祭」が昨年12月21日(つくば市竹園)で行われた。同公演は昨年同様、観客席を回りながら観客と一緒にパフォーマンスする部員達の姿からその思いが感じられた。応援団WINSの主力である関口知宏さん(生資3年)は最後のあいさつで「応援は人と人との



力強い演技を披露する団員

個性あふれる作品を展示

第6回クラフト展。芸術専門学群の構成専攻および人間総合科学研究科の博士前期課程芸術専攻の学生達による第6回クラフト展が昨年12月17日に大学会館の総合交流会館で行われた。7日間で524人が訪れ、来場者は個性あふれる作品の数々を鑑賞した。



作品を見て回る来場者達

日ごろの成果を発表

第28回M.C展。人間総合科学研究科の博士前期課程芸術専攻で洋画や日本画、版画を学ぶ学生らによる展示会。第28回M.C展が昨年12月6-11日に、茨城県つくば美術館つくば市吾妻で開催された。

アカペラサークル Doo-Wop

5グループが合唱を披露

観客を楽しませる演出も

アカペラサークルDoo-Wopのクリスマスライブが昨年12月15日にカピオホール(つくば市竹園)で開催された。今年のライブのテーマは「Christmas F antasy」。素敵な夜の贈り物」。同サークル内のオーデイションで選ばれた5グループが出演、アカペラ合唱を披露した。



美しい歌声を響かせるDoo-Wopのメンバー

永井博氏(ながい、ひろし)本学名誉教授。昨年11月7日に死去、91歳。辻功氏(つじいさお)本学名誉教授。昨年11月18日死去、84歳。秋貞雅祥氏(あきただまさよし)本学名誉教授。昨年12月5日死去、86歳。吉澤正氏(よしざわまさよし)本学名誉教授。昨年12月17日死去、73歳。内山喜久雄氏(うちやまきくお)本学名誉教授。昨年12月20日死去、92歳。志村尚夫氏(しむらひさお)図書館情報学名誉教授。1月7日死去、82歳。作道恒太郎氏(さくどうこうたろう)本学名誉教授。1月13日死去、84歳。

筑波時評



竹中佳彦

昨年12月の衆院選では、民主党が、議席を公示前の230から57に減らす一方、自民党は294議席、公明党も31議席を獲得し、政権に復帰した。

投票率で見る衆院選

記者の声



鈴木かおる

総務省が出した「2015年までに小学校の全生徒にデジタル教科書を配備する」という方針に従い、今、出版業界は積極的に教科書のデジタル化に取り組んでいる。近い将来、子供達が端末だけを持って学校に行き、授業を受ける時代が来るのだ。だが私は全面的なデジタル化には反対だ。紙の教科書を使った時に比べ彼らの「考える力」が低下する恐れがあるからだ。紙の教科書には、デジタルにない長所が多い。今後の

ただし議席の激変は、小選挙区の結果によるものだ。小選挙区で、自民党の議席占有率は79%だが、得票率は43%にすぎない。各党の得票数を当日有権者数で割った絶対得票率では、自民党は24.7%で、前回から1.5ポイントも減らした。比例代表では、自民党の絶対得票率は16%であった。衆院選では多数の離合集散が起こったが、みんなの党、日本維新の会、日本未来の党の比例代表の絶対得票率の合計は約20%に達する。

新党が結集して全国区の小選挙区に候補者を擁立できていれば、自民党の大勝はなかったろう。自民党は、聖域なき閣内閣を前提としたTPP(環太平洋経済連携協定)に反対、尖閣諸島の公務員常駐(竹島の日式典の政府主催などを公約し)安倍首相はできることしか書かない」と述べた。現在、首相は金融緩和・財政出動・成長戦略を「三本の矢」とする経済政策を優先している。来る参院選を乗り切れば3年ほど国政選挙はなく、首相にとって肝要なのは参院選での勝利だ。世論の支持を得やすい経済政策を前面に据えるのは賢明である。だがリフレ政策は、賃金上昇がなければ家計を圧迫し、国債の下落や財政赤字の増大を生む懸念もある。

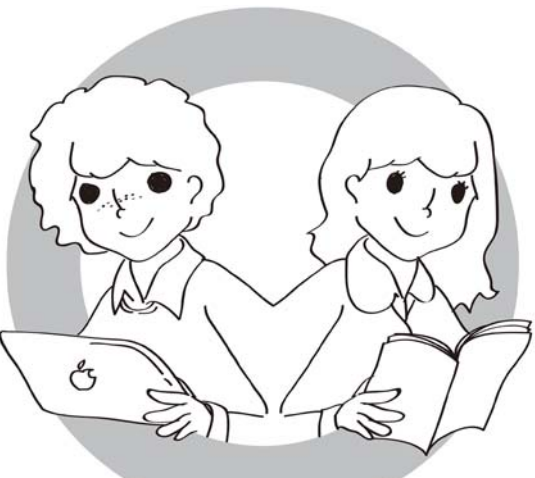
他方、日米関係や経済界の要望を重んじれば、TPPに参加することになる。TPPは、消費増税、原発再稼働とともに民主党を分裂させた争点だが、自民党は一体を保てようか。自民党まで公約を軽んじれば、政党システムへの不信は一層強まるだろう。(人社会・教授)

教育現場はデジタル一辺倒ではなく、この長所を再認識したうえで、「紙との併用」を考へるべきだ。

教科書のデジタル化が世界の傾向であることは間違いない。韓国ではすでに公立学校と高等教育機関ですべての教科書を電子化する取り組みを行っている。ウルグアイやフランスでは完全移行済みという。デジタル教科書を推進する国立国会図書館長の長尾真さんには、児童・生徒が家庭にいても端末装置を使っても自由に勉強ができるよう、デジタル演習問題集などの作成を目指すべきだ、とも主張する(岩波新書『本はこれから』)。果たしてこの流れは正

しいのだろうか。確かに児童や生徒が端末を持って、すぐにネット上で英単語や四字熟語の意味は分かるだろうし、複雑な事象も映像つきで説明してくれるかもしれない。だがそこでは失われるものも大きいと思う。紙の教科書を使っていた我々は、勉強で問題に直面した時、まず「どうやって調べたらいいか」を考えた。親や教師に相談したり、図書館や本屋を回ったりもした。目的の辞書・辞典や参考書を見つけても、引き方や読み方がわからず、再び親や教師に聞いたこともあった。その上で、何度か何度も辞書を引き、参考書をめくった。

デジタル化が行われれば、これらの努力はほとんど必要なくなる。全て端末が教えてくれるようになるのだ。デジタル教科書は子供の「自ら考え



反射鏡

迷いながらも前に進む

都築清歌(医学4年)

私は生来からの優柔不断だ。迷って抱え込まないところが羨ましい。と友達から言われる。そんな私が現役の高校生だったころ、私学部の説明会に出てみるよ」と高校の担任に声を掛けられ、「時間もあれば聞いてみるか」と軽い気持ちで行った説明会で自分の人生が変わるとは思っていなかった。自分より年齢の低い子供が、小生が変わるとは思っていなかった。

だが3つ目の夢が自分の中で現実感を帯びるのには時間がかかった。なぜなら急に医学部に行きたいと思った明確な理由が分からなかったからだ。「小児ゼンゼン」を診てくれた受け持ち医に感謝しているから」「病気で困っている人を助けたいから」……。医学部を志望する周りの友達に話を聞くと、皆理由があるような気がした。病気を治す以外なら困った人を助ける方法は他にもある。「なんで私は医学部なのだろう」と自問自答する日々が続く。結論が出ないまま結局現役の時に入理学部を受験した。しかし受験が終わって理理学部の大学生になった時

葉を処理するときは脳の左右の奥の領域の動きが必要になるが、画像や動画といった非言語のコンテンツの場合は脳の動きが限られるからだ。画像などのコンテンツは分りやすいが、同時に「分かった気」になってしまう危険がある。

東京大学名誉教授の尾鍋史彦さんも電子メディアでの学習に難色を示す。液晶や電子ペーパーなど、人間にとって違和感があるメディアを用いた学習は、長期記憶の定着が不安定になるという。実際に教育現場に立つ教師の中にも、デジタル教材導入に懐疑的な人がいるという。子どもが簡単に端末をなす、壊す

な可能性があるから(宝島社『電子書籍の正体』)。いじめや盗難が問題視される学校では、その不安はより高まるだろう。紙の教科書ならば買い換えは容易だが、1台3万円程度するiPadなどの端末は何度も買い換えるわけにはいかない。年配の教員などデジタル機器に慣れていない人がデジタル教科書を使いこなせるようになるには、時間が必要にもなるだろう。

無論、私はデジタル化の流れを全面的に否定しているわけではない。教科書をそのまま電子黒板に映して授業で使えれば、板書する先生の負担が減る。理科や数学の複雑な概念もデジタル機器を使ってビジュアル化することも可能だ。語学での有効活用も期待される。

昨年4月から、附属図書館でアルバイトをしている。そこでつくづく、本が好きだと感じる。本が好きなと感じる。本の手取り、インクのおい、棚に整理番号などに詰まっている様子、そして、今も多くの人が利用してきたことが分かる。紙のよれや書き込みの跡……。また大学受験の前日、小論文の練習でよれよれになったノートを見ながら「大丈夫さ、自分を受験期を思い返した」と受かる」と自分を励ました日にも忘れはしない。どれだけ便利な機械が出てきても、「紙」でしか味わえないものがあると私は信じる。

教材の電子化に求められるのは全面的移行ではなく、あくまで紙の補助としての活用だと思う。紙、デジタルの二者択一ではなく、バランスをとって利用することを求めたい。(比較文化学類3年)

今月のテーマ 受験期の思い出



に、私は後悔だけが残った。もう一度チャンスをもらって、1年後医学部に入学した。

今私は医学部の4年生になった。毎日、病棟実習と勉強で1日があっという間に過ぎていく。でも人の本

受験を支えた母の味

高田文(芸専2年)

受験生だった私の朝はホットミルクティーで始まっていました。思い出というほどではないけれど、私が受験期を思い返した時、一番始めに頭に浮かぶのは、何となくもホットミルクティーなのです。

高校に入学したばかりの私は、夜遅くまで勉強して不健康極まりない生活を送っていました。ちなみに中学のときまではほぼ8時間寝ていたのですが、私の衰退ぶりは目に見えてひどかったと思います。高校1年生の冬、見かねた母に「朝型にしよう」と提案、というよりも強制された。その日から朝5時に叩き起されるという生活が始まりました。何十年も後型だった母が、私のために毎朝5時に起きて起してくれているのには、当時の私は嫌々起きていました。それでも起きるといつ

もホットミルクティーが用意されていて、朝から仕事を返して母がいて、それを見てやると、私もおんほろろと思えたのでした。

励まし合える友達がたくさんいましたが、進学校のなかで唯一の芸術系志望だったため、皆のように友達と一緒に勉強することもできません。母は、私がミルクティーを大好きだとは思っているようです。わざわざ自分で作って飲むほど大好きなわけではないけれど、それでもやっぱり希望の知り合いが一人もいなくて心細かったことを覚えていて、温かい気持ちになれる気がします。一人でもがんばるよ、ありがとう。

次号のテーマは

ふるさとです

TEL 029-853-6600
e-mail shinbun@un.tsukuba.ac.jp

投稿募集

みなさまからのご意見をお待ちしております。

筑波大学発！スマートフォンアプリ

手軽に健康管理

親元を離れた一人暮らしでは、野菜が足りなかったり、肉類を食へ過ぎてしまったりと、生活はどうしても偏りがちになってしまっている。そんな大学生にぴったりののが、気軽に食生活のチェックができる「Balance App」というアプリだ。本学大学院の運動栄養学研究室に所属す

る角谷雄哉さん(体科1年生)を始め、5人の本学大学院生が作成した。同アプリは、食生活のバランスをチェックするもの。主食、主菜、副菜、果物、乳製品などの項目に分かれており、1週間で食べた回数と量から、その週の



栄養バランスを確認できる。角谷さんは「他の食生活チェックアプリと違い、1週間に一度の確認で済む。毎食ごとに何をどのくらい食べたかをいちいち記さずに済む」と話す。使い方は簡単。例えばごはんや麺類などの主食な

物やファストフード、甘いお菓子などを食べた回数を同様に入力する。入力後に栄養バランスが5角形のグラフで表れる。さらに、とりすぎに気を付けるべき脂質、塩分、糖分の摂取量をOKの3段階で評価する。アドバイスも表示され、自分の

1回の食事で食べる量を普通大盛りの普通を2杯、大盛り2杯などから選択し、1週間でその量を何回食べたかを選択する。主食、主菜、副菜、果物、乳製品

のそれぞれの項目でも同じことを行う。その後、揚子などを入力。入力後に栄養バランスが5角形のグラフで表れる。さらに、とりすぎに気を付けるべき脂質、塩分、糖分の摂取量をOKの3段階で評価する。アドバイスも表示され、自分の

食生活に何が不足しているかがすぐに分かる。また、料理レシピの検索サイト「COOKPAD」とリンクしており、食生活改善のためのレシピも教えてくれる。例えば野菜が足りないと診断された場合は「野菜 たっぷり」というキーワードで、COOKPADで自動的に料理のレシピを検索される。「食生活では、体育専門学群所属の学生の食生活を調査している。1体芸の) 学食は肉類が多く、野菜が少ない。アプリの食生活としてはバランスが良いとは言えない」と感じ、このアプリを作成したという。食生活が気になる学生は、このアプリを使って、自分の食事を

攻の大学院生が手掛けていた。いろいろな分野の学生が集まる筑波大学ならではのアプリだ。角谷さんは「このアプリを使って自分の食生活のバランスをチェックし、足りない野菜が足りないと診断された場合は「野菜 たっぷり」というキーワードで、COOKPADで自動的に料理のレシピを検索される。「食生活では、体育専門学群所属の学生の食生活を調査している。1体芸の) 学食は肉類が多く、野菜が少ない。アプリの食生活としてはバランスが良いとは言えない」と感じ、このアプリを作成したという。食生活が気になる学生は、このアプリを使って、自分の食事を

人と交流できる図書館を

卒業研究として開発したり「ぶこめ」は図書館での「一本や人との出会い」を演出してくれるアプリだ。



小林さんは「このアプリの開発に当たり「書店のポップをイメージした」と語る。使用は簡単だ。図書館の本にスマホのカメラを向け

た。小林さんは「このアプリの開発に当たり「書店のポップをイメージした」と語る。使用は簡単だ。図書館の本にスマホのカメラを向け

小林さんは「このアプリの開発に当たり「書店のポップをイメージした」と語る。使用は簡単だ。図書館の本にスマホのカメラを向け

画面に浮かび上がるコメント(右)公開は考えていない。空間に生まれ変わるかもしれない。

スマホをより使いやすく

Android携帯では、アプリをたくさん入れ

ていたり、アプリを終了し

やすくなるのが大事」と

高瀬さんは「つくばに会

よく、スマホ

世間を騒がせたiPhoneの発売から早6年。スマートフォン(スマホ)の

使用は年々増え続け、本学生も多くがスマホを所持している。その中で、

「おじさん」の体調も悪くなるよ!



スマホの状態を教えてくれるおじさん

りぶこめ

た。小林さんは「このアプリの開発に当たり「書店のポップをイメージした」と語る。使用は簡単だ。図書館の本にスマホのカメラを向け

小林さんは「このアプリの開発に当たり「書店のポップをイメージした」と語る。使用は簡単だ。図書館の本にスマホのカメラを向け

小林さんは「このアプリの開発に当たり「書店のポップをイメージした」と語る。使用は簡単だ。図書館の本にスマホのカメラを向け

小林さんは「このアプリの開発に当たり「書店のポップをイメージした」と語る。使用は簡単だ。図書館の本にスマホのカメラを向け

退職教員インタビュー 研究人生の歩み

今年もお世話になった教員の方が退職される。学者として、指導者として、豊富な経験を積んできた彼らは、多方面から本学をより良くするために、尽力してきた。研究の日々の中で、果たしてどのようなことを考え、感じてきたのだろうか。



野村良和教授(体育系)

学生の指導に尽力

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。

「元々は体育の教員になったつもりだったが、研究のフィールドが広がっていった。学校の保健学について、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。」



中村徹教授(生環系)

植物に見る世界

植物の生態や環境への適応能力は、自然の奥深さを教えてくれます。中村先生は、植物を通じて世界の多様性を学びたいと考えています。

植物の生態や環境への適応能力は、自然の奥深さを教えてくれます。中村先生は、植物を通じて世界の多様性を学びたいと考えています。

植物の生態や環境への適応能力は、自然の奥深さを教えてくれます。中村先生は、植物を通じて世界の多様性を学びたいと考えています。

植物の生態や環境への適応能力は、自然の奥深さを教えてくれます。中村先生は、植物を通じて世界の多様性を学びたいと考えています。



板野肯三教授(シス情系)

コンピュータが何らかの業務を処理するとき、作業の進捗状況を「ログ」として記録する。板野先生は、この記録から新たな発見を求めたいと考えています。

コンピュータが何らかの業務を処理するとき、作業の進捗状況を「ログ」として記録する。板野先生は、この記録から新たな発見を求めたいと考えています。

コンピュータが何らかの業務を処理するとき、作業の進捗状況を「ログ」として記録する。板野先生は、この記録から新たな発見を求めたいと考えています。

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。

「民家」の可能性を探る

民家は、日本の歴史を体現しています。その構造やデザインは、自然と調和し、持続可能な生活を営むための知恵が詰まっています。

民家は、日本の歴史を体現しています。その構造やデザインは、自然と調和し、持続可能な生活を営むための知恵が詰まっています。

民家は、日本の歴史を体現しています。その構造やデザインは、自然と調和し、持続可能な生活を営むための知恵が詰まっています。

好奇心に身を任せて

好奇心は、研究の原動力です。未知の世界を探求し、新たな発見を求めたいという気持ちで、毎日新しいことに挑戦しています。

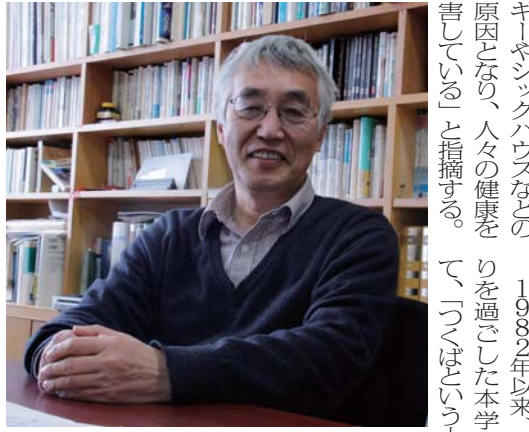
好奇心は、研究の原動力です。未知の世界を探求し、新たな発見を求めたいという気持ちで、毎日新しいことに挑戦しています。

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。

野村先生は、退職まで幅広い分野で学生の指導に尽力されました。特に、学校の保健学に関する研究で、学生が健康を維持するために必要な知識を身につけてもらうことに尽力しました。



安藤邦廣教授(芸術系)

安藤先生は、建築や芸術の分野で活躍されています。その作品は、自然の美しさを表現し、人々の心を癒やす力を持っています。

安藤先生は、建築や芸術の分野で活躍されています。その作品は、自然の美しさを表現し、人々の心を癒やす力を持っています。

学者として 指導者として



植松貞夫教授(図情メ系)

中央図書館のリニューアル前、現在スターバックスをこまめにとほくく違うコーヒーのある場所には新聞の立ち読みスペースがなかった。しかし、新聞を含めた紙媒体の電子化が進んだこともあり、当時所属図書館長を務めていた植松貞夫教授(図情メ系)は、結果、現在のように人々が利用者のニーズに合わなく

なると判断。このスペースをこまめにとほくく違うの行動の仕方から建物の使用方を分析し、それに適した建物の設計計画のあり方を研究する学問だ。高校2年生の美術の時間、博物館の完成予想図を眺めながら、課題が出された。製図用の定規を使い、試行錯誤しながら完成させた。「我ながら良くできたなあ」とこの時から建築に興味を持つようになった。

また始まったばかりだった本学のキャンパス設計に携わり、大学会館地区の建築計画を任せられた。その次に任されたのが中央図書館の設計計画。これをきかっけに図書館の建築を専門とするようになり、日本各地をめぐった。

建築計画学を学んで6年経った、大学院修士2年のある日のこと。「実は来年から筑波大学の副学長になることになったんだけど、一緒に君も(筑波大学に)来てほしい」と、指導教官から誘いがあった。「(人柄が)魅力的。その先

この30年後、本学の図書館を統括する、附属図書館に就任。「まさか自分が設計に関わった(中央図書館)館長室で仕事をすることになるとは思わなかった。館長室は使ってみるとちょっと狭かった」と笑いながら話した。



撮影地=宝篋山

筑波大学出版会 新刊案内!

北米先住民族の文化と主権 松井健一 著

本書は、北米先住民族の文化と主権について紹介しているが、彼らの衣装・宗教儀礼・狩猟などの分類に分けて紹介する「博物誌的」な文化紹介ではない。文化と主権のリンクを探るところから始まり、法律の概念に基づいた先住民族の文化理解の問題点を検証し、彼らの歴史と伝統を考え、映画や演劇、文学、観光などの大衆文化に残る先住民族への偏見の変遷を丹念にたどっていく。

「誇り胸に学べ」

発見を発表した。鳥類の翼は「腕」に羽が生えたものと考えられる。一方で、コウモリ類の翼は「伸び縮みしやすい皮ふのような膜」(飛膜)で大部分ができており、飛膜は、さらに親指を除く指の間の膜(指間膜)も

この細胞が独自に進化した指間膜になる。これまでの指間膜の形成過程は分かっていたが、それ以外の飛膜の形成過程は不明だった。そこで阿部さんらは、翼の開閉などに関わると思われる遺伝子を調べ、この遺伝子は手足の形成を促すたんぱく質で、これが飛膜内部に

「就職水戸期」をテーマにしたテレビ番組や新聞記事をよく目にする。今の時期、内定を志すために必死になっている大学3年生、将来を見据える時期になり、何がしたいのか苦悩する大学2年生も多いのではないだろうか。

「あなたが大学時代、視野を広げ、夢を描こう」



は「哺乳類で唯一「翼」を持つ「コウモリ類」。ムササビやヒヨケザルなど体の膜を使い空中を「滑空」するほ乳類はいる。だが、コウモリは「羽ばたき」という行為を得て、世界に約1000種にも及ぶ大勢力となった。なぜ彼らは翼を獲得できたのか。昨年12月18日付けの英科学誌ネイチャー・コミュニケーションズに、土岐田昌和元助教(生環系・現ハーバード大研究員)と院生の阿部貴晃さん(生環1年)が、コウモリ類の翼についての新

コウモリ類 翼の形成過程を解明 進化の謎を解く鍵に

など4つの膜に分かれていた。妊娠初期のほ乳類の胎児は、指の間が水かきのような組織でつながっているが、成長と共に自然消滅する。だが、コウモリ類はこの水かきが消えずそのまま残った結果、

し、体の組織が構成される過程を調べた。その結果、コウモリの翼の筋組織は「筋芽細胞」から生じることが判明。この細胞は、ほ乳類の場合、胎児の成長と共に筋肉や心臓などに変形する。だがコウモリでは、



コウモリ類と他のほ乳類(例: マウス)の胎児比較。青はFgf10の出現位置を、赤、オレンジは筋を示す。コウモリ類の独自の筋(赤)が、筋組織となる。



青年支援団体「チャックメン」代表 町田 健登さん

「就職水戸期」をテーマにしたテレビ番組や新聞記事をよく目にする。今の時期、内定を志すために必死になっている大学3年生、将来を見据える時期になり、何がしたいのか苦悩する大学2年生も多いのではないだろうか。

「あなたが大学時代、視野を広げ、夢を描こう」

「就職水戸期」をテーマにしたテレビ番組や新聞記事をよく目にする。今の時期、内定を志すために必死になっている大学3年生、将来を見据える時期になり、何がしたいのか苦悩する大学2年生も多いのではないだろうか。

「あなたが大学時代、視野を広げ、夢を描こう」

選手の熱気に スタンドも燃えた



前半、福岡堅樹のトライに沸く応援団

【国立競技場で松本果 まする「走れ」「走れ」の 奈川文学類3年、鈴木拓 声。そして翻るブルーの旗 也「1年」わき上がる筑 波の波……。2万人が詰めか けた国立競技場(東京都新 波コル)。競技場にこだ

り燃える。選手らの粘 りに熱いエールを送り、準 優勝をたたえた。 来者が楽しみ 長女が本学に在籍すると いう東京都足立区の会社 員、安田修さん(58)は、 試合後「後半、良く粘っ た。良い試合だった」と本 学の健闘をたたえた。大学 スポーツの大ファン。「筑 波には他大学のように留学 生選手もいなければ選手専 用の寮もない。食事などの 体調管理も自分でやってい る。その中で、良く頑張っ た」と絶賛。「下級生には 有望選手もおり、来者が来 しみた」と話した。

試合終了後、スタンドか ら惜しみない拍手を送って いたのは安藤那廣教授(芸 術系)。同教授は今年で定 年だが「30年勤務した最後 高校からは後輩達が応援に 来た。選手達は格好良 かった」と興奮気味に話 した。

「教え子」とOB 主将・内田啓太(体専4 年)の母校・山梨県立日川 高校からは後輩達が応援に 来た。選手達は格好良 かった」と興奮気味に話 した。

増える筑波ファン 本学関係者だけではな ら本学を応援し始めたとい う。高校進学の際には、 外の強豪校も進路として 考えた。だが「自分が引 張る」という思いから、 ミニバスの監督が学生時 代に教えた先生が、バス 部の監督を務める

「院生、OB、古川監督 のおかげだ」と思う」と 裏方も健闘 「バスで展開する筑 波のスタイルが好き。神 奈川県横須賀市から来た女 性(31)はこう話した。「最 後の2トライで筑波の意地 を見た」。

チームメイトの悪いとこ ろを指摘し続けた。ま た、「学校生活をしっかり やってこそ、バスケーも うまくなる」と思い、部 員がスカートを短くし ないことなどを徹底し た。自らをクソマジメ」とも評価する。

カレでアシスト主を獲得 するなと活躍した。 「アシスト主はシュー トを決めた人のおかげ。 みんなの賞」と謙遜す るが、大監督は「ポイ ントガードとしてアシス ト(パス)に優れている。 ミドルシュートが上達す れば、日本を代表する選 手になれるだろう」とそ の将来性に太鼓判を押 す。「今は筑波の雰囲気 に慣れ、先輩たちが理想 とするチーム作りを協力 したい」というが「4年 生になったらキャプテン になりたい」と、定位置 での日本一を目指す。

森下 奇麗に一本勝ち 世界選手権代表へ一歩

柔道 グランドスラム東京 柔道ワールドスラム東京 が昨年11月30日から12月2 日に国立代々木競技場第一 体育館(東京都渋谷区)で 開催された。本学では、男 子66kg級で森下純平(体専 4年)が優勝、73kg級で西 山雄希(同3年)が第3 位、女子78kg級で緒方亜香 里(同4年)が準優勝に輝 いた。

森下は準々決勝で世界選 手権2連覇中のロシアのソビロフ(ウズベキスタン) に内股で一本勝ち。続く準 決勝でも一本勝ちし、決勝 に進出した。 決勝ではダヴィド・ラ ロース(フランス)と対 戦。森下は開始早々、内股

森下 優勝する チェジュ

柔道 ワールドカップ・チェジュ大会が12月6-7 日に韓国のチェジュで開催 された。本学からは森下純 平(体専4年)と、パキス タン代表としてシャーフセ イン・シャー(同1年)が出 場し、森下が66kg級で優 勝を収めた。

増地克之監督(体育系・ 講師)は「国内と違い、海 外で勝つのは難しく、また 今回は連戦のため、更に大 変だった。その中で勝利を 収めたのは非常に評価でき る。世界選手権に向けて、 良い結果を残せた」と語っ た。

全日本ラート競技選手権大会 男女共に総合優勝 高橋 高得点を連発

第18回全日本ラート競技 選手権大会が、昨年12月15 -16日に、つくばカピオア リーナ(つくば市竹園)で 開催された。本学からも多 くの選手が出場し、男子総 合では高橋靖彦(体育2年) が優勝、女子総合では松浦 佑希(体専2年)が優勝、 堀口文(同4年)が2位に 入賞した。

男子の部では高橋が力強



松浦の安定した演技

い演技で10点を連発。斜 転部門と跳躍部門で1位、 直転部門で2位に入賞し、 総合優勝を果たした。斜転 部門はラートを傾けて一本 の輪だけで回転させるた め、重心の移動が難しく、 途中でバランスを崩し足を ついてしまう選手が多い。 その中で高橋は最後までバ ランスを崩すことなく、高 得点を獲得。他の選手に差 をつけた。

女子の部では松浦が斜転 (12面に連続写真) で3位、直転と跳躍で2位 に入賞し、安定した演技を 見せて総合優勝した。堀口 は斜転でミスをしてしま い、6位からのスタート。 だが、直転と跳躍では1位 ととなり、総合でも2位に 入賞した。

総合優勝した松浦は 「フーミスで、自分らしい 演技をしていくことを心が けていた。優勝できて本 当に良かった」と話した。

今年1月に行われた第 79回皇后杯全日本総合バ スケットボール選手権大 会、学生チームで唯一 ベスト8に進み、存在感 を示した本学の女子バス ケットボール部。その中 に「日本一になりたい」と 真っすぐなまなざしを 語る選手がいる。世代別 のU-18アジア選手権日 本代表チームでもキャプ テンを務め活躍する藤岡 麻菜美(体専1年)だ。

「キャプテンシー。 キャプテンとしての指導 力を表す言葉だが、彼女 を象徴するのはまさにこ の言葉だろう。小・中高、 さらに世代別の日本代 表チームでもキャプテン を務めてきた。その原点 はバスケット始めた千葉 県の小学校時代にある。当 時所属していたミニバス ケットボールチーム(ミ



U-18女子バスケットボール日本代表 藤岡麻菜美(体専1年)

を重ねた。「全員を同じ 目標に向けるのは大変 で、何度もバスケットをや めようと思った。そんな 時に支えとなったのは、 恩師の言葉だった。

「キャプテンはチーム の嫌われ者になれ」 この言葉を信じ、チー ムのために面と向かって

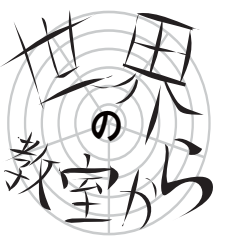
恩師のために全国へ

「バスで今では恩師と 慕う当時の監督と出会っ た。監督が現役時代、務 めていたポイントガード (ゲームをコントロール する司令塔的なポジション) を担った。そのた めか(当時の)監督には 厳しく指導された」と 笑う。このように徹底的 に教えら

れたドリブルとパ スは「今 では持ち味」と自 負する。 ミニバ スを卒業 する時に は「目 指せ、日 本一の ガード」と書かれ

たサインボールを監督か らもらった。そのメッ セージを胸に、「恩師へ の感謝のために自分 がチームを引っ張って 時に支えとなったのは、 恩師の言葉だった。

「バスケットはチーム プレー。 全員参加のバスケットを指 したい」と自らの信条を 述べる。コートの外から 指導者として選手をアシ ストする日を夢に、ま ずは強豪・筑波で日本一を 成し遂げる。(鈴木拓也 文学類1年)



ユタ州立大学 (アメリカ)

佐々木拓海

アメリカと聞いて思い出す都市は、太陽がサンサンと降り注ぐ天使の町・ロサンゼルスや、世界一のリゾート・マイアミそして、世界の中心巨大都市・ニューヨークかもしれない。

そんな誰もがあこがれるような大都市とは全く関係のない極小都市、ユタ州ローガンにあるユタ州立大学で勉学に励んでいるのは私、佐々木拓海

自ら挑戦し、「非日常」をつくる

終わるころには留学生生活に慣れを感じていた。

「留学生生活は、毎日が新しいものとの出会いで……」なんてことをよく聞か、そんなものは始めたばかりの私にとってもそうであった。しかし、非日常はすぐに日常になる。正直、秋学期がなければ何も始まらない



パーティ前に仲間と(中央が佐々木さん)

「らんぶ」交差点で事故 安全確認の徹底を 学生にマナー順守求める

昨年12月4日15時ごろ、つくば市天久保3丁目にあ



トラックが衝突し、大破した「らんぶ」

る大学公園南の交差点で、本学生の運転する乗用車が交差点を右折しようとしたところ、対向車線から直進してきた清掃車と接触。避けようとした清掃車が交差点近くの喫茶店「らんぶ」に突っ込んだ。負傷者はなかったが、「らんぶ」は道路に面した客席付近が大破した。つくば中央署への取材では、一般的にはこのような事故の場合、交差点を曲がることとする車両にまず第一の注意義務があるとい

同署への取材によると、昨年、同署の管轄内で発生した交通事故件数は963件。そのうち追突事故が400件以上と最も多く、次いで今回のような、交差点などでの出会い頭の事故が約250件あったという。県内の交通事故総数は約1万5000件だった。同署の入江邦夫交通課長は交通事故の主原因として、①前方不注意②安全確認③ちょっとした油断の3つを挙げ、注意を呼びかけている。これとは別に同課長は本学生に対し、「自転車に乗る学生も多く(自転車に乗る学生には)無灯火や、音楽を聞きながらの運転なども見られ、非常に危険」と交通ルールやマナーの順守も求めている。

多文化ウェルネスワークショップ 異文化での時間利用法学ぶ 説明には英語も使用 異文化の生活に必要な心「タイムマネジメント」。参加者は異文化の生活での効率的な時間利用法について学んだ。説明には日本語だけでなく英語も用いているなど、国際的な雰囲気の中で、今回のテーマは「異文化はじめに、島田直子助教



身ぶりをまじえ、説明する鈴木助教

(保健管理センター・人間系)が異文化での生活に適應することの難しさやストレスについて話し、タイムマネジメントの重要性を強調した。 続いて鈴木華子助教(留学生センター・人社会)が時間をうまく活用できない理由を「技術的要因」「変えられない現実」「心理的要因」という3つの点から述べた。特に「やるべきが多すぎて覚えられない」「非現実なまでに予定を詰めるといった技術的要因には多くの参加者が共感を示した。

ロンドン五輪銀の平岡も参加

本学の柔道部の学生と教職員合わせて8人が、1月13日に東日本大震災の被災地である岩手県大船渡市の



子供と試合風の練習をする平岡(左)

「東北3県柔道指導キャラバン」の一環で、幼稚園から高校生まで約70人の子供が参加した。 昨年のロンドン五輪60kg級銀メダリストの平岡拓晃(体育2年)も柔道指導を行い、子供達と試合風の練習などを行った。子供達も真剣に練習に取り組み、いきいきとした表情を見せた。

今回の団長である増地克之監督(体育系講師)はまだ不自由な生活を強いられているにも関わらず、柔道に一生懸命取り組む姿に感動した」と語った。(12面に関連写真)

1年間の活動を報告 今後の発展も見据える

つくばアクションプロジェクト

「つくばアクションプロジェクト」は、約70人が訪れた。第一部では中部大学学生相談室の桐山雅子教授と、株式会社リアセック代表取締役CEOの松村直樹さんが、「外から見たT・A・C

の取り組み」というテーマで講演を行った。桐山教授は「T・A・Cは、学生

がさまざまな人間関係の中で、さまざまな体験を通して大学生生活を輝かせることができる活動だ」と話した。

第二部では今年度上半期にT・A・Cで行われた企画のうち、最も学生の思考力やイベントの企画力向上につながる、と評価されたものに対し、表彰が行われた。

最優秀賞には「Astro Cafe 宇宙を語る場所」が選ばれた。お茶や

お菓子を囲んで気軽に宇宙について話すことを目的に昨年5月に開催された100人以上が訪れた。代表の鈴木裕行さん(数物1年)は「宇宙のロマンを広く知ってほしい、という思いから活動へつなげた。多くの人が来てくれたことが一番の思い出」と話した。

その後「T・A・Cのいまこれから」というテーマでパネルディスカッションが行われた。T・A・C

日本の難民問題を紹介します 難民の人々との議論も

難民交流会

日本にいる難民と交流するイベント「あなたの一歩で世界が広がる」C・LOVER 難民交流会

と、東日本入国管理センター(茨城県牛久市)の収容者約20人が訪れた。 イベントを主催した本学の学生団体「C・LOVER」は、同センターの収容者への面会や、難民申請のための書類の翻訳などを行っている。

前半は、国連UNHCR協会が作成した世界各国の難民を紹介するビデオを視聴。続いて、同団体のメンバーによる難民問題の紹介と劇が披露された。団体のメンバーはそれぞれ収容者、入国管理局の役員などに、難民認定や同センターでの生活の厳しさ、同団体の収容所での面会の様子などを演じた。

後半は、収容者の人々と来場者がグループをつくり、ディスカッションを行った。収容者達は、「宗面に関する記事」



「先導的研究者体験プログラム」とは、文部科学省が行っている「理数学生志願プロジェクト」の一つで、

先導的研究者体験プログラム
理工農系の学群1-3年生が自身の研究成果を発表する「先導的研究者体験プログラム」研究発表会が、1月21日に3A棟204などで行われた。

市民シンポジウム
つくばの建築の魅力伝える 鶴澤教授が講演

「課外活動団体リーダー研修会」が昨年12月8-9日に群馬県前橋市の国立赤城青少年交流の家で行われた。この研修会は、体育・文化・芸術系のサークル連合会に所属する団体の次期リーダーなどを対象に、毎年開催されている。課外活動の意義やあり方について理解を深めることや、団体の枠を超えて交流することが目的だ。今年も130の団体から200人を超える学生が参加した。

筑波大学附属病院 新棟「けやき棟」完成



可動式MRIが導入された手術室

災害時の対策も
本院附属病院の新棟「けやき棟」が完成し、昨年12月26日から運用が開始されている。

本院の取り組みの紹介やイベントなどに使用されるが、災害時には同病院の災害対策本部にもなる。院内には本学芸術専門学群と連携し、学生や教員の絵や書道などを廊下に展示。ロビーに設置された大型モニターにも、作品が映し出されている。

団体の交流も
課外活動団体リーダー研修会
学生支援室が主催する「課外活動団体リーダー研修会」が昨年12月8-9日に群馬県前橋市の国立赤城青少年交流の家で行われた。この研修会は、体育・文化・芸術系のサークル連合会に所属する団体の次期リーダーなどを対象に、毎年開催されている。課外活動の意義やあり方について理解を深めることや、団体の枠を超えて交流することが目的だ。今年も130の団体から200人を超える学生が参加した。

多様さや総合性を表現
100人以上の学生集まる
来年度から新しく使用する大学紹介映像の撮影が、昨年12月から今年1月にかけて行われた。中でも12月21日には、中央図書館前の石の広場に100人を超えるエキストラの学生を集め、大規模な撮影が実施された。

難民という言葉を聞く
難民という言葉は聞くけど、どんなイメージを抱くだろうか。アフリカや戦争中の国をイメージし、日本とは関係ないと思える人が多いかもしれない。だが、日本にも多くの難民や、入国手続きなどが不備のまま来日した人々がいる。その彼らのために活動する本学の団体「CLOVER」が、CLOVER 難民と共に歩むユース団体だ。



建物に浮かび上がる巨大な飛行機の影

育・研究に関係するものばかり。本学の多様さや総合性が表現されている。制作に携わった鈴木桐彩さん(芸専1年)は、影が飛行機になるように調整するのが大変だったが、うまくいった良かった。プロの人とも関わって良い経験になったと話した。

CLOVER

CLOVER (Car & LOVE for Refugee) は企画、面接、翻訳、日本語サポート、広報・渉外の5つのチームに分かれて活動するボランティア団体。

難民という言葉を聞く
難民という言葉は聞くけど、どんなイメージを抱くだろうか。アフリカや戦争中の国をイメージし、日本とは関係ないと思える人が多いかもしれない。だが、日本にも多くの難民や、入国手続きなどが不備のまま来日した人々がいる。その彼らのために活動する本学の団体「CLOVER」が、CLOVER 難民と共に歩むユース団体だ。



難民達に愛を届ける

難民という言葉を聞く
難民という言葉は聞くけど、どんなイメージを抱くだろうか。アフリカや戦争中の国をイメージし、日本とは関係ないと思える人が多いかもしれない。だが、日本にも多くの難民や、入国手続きなどが不備のまま来日した人々がいる。その彼らのために活動する本学の団体「CLOVER」が、CLOVER 難民と共に歩むユース団体だ。

難民という言葉を聞く
難民という言葉は聞くけど、どんなイメージを抱くだろうか。アフリカや戦争中の国をイメージし、日本とは関係ないと思える人が多いかもしれない。だが、日本にも多くの難民や、入国手続きなどが不備のまま来日した人々がいる。その彼らのために活動する本学の団体「CLOVER」が、CLOVER 難民と共に歩むユース団体だ。

Who's Who?

4オクターブの音域を操るアカペラ歌手

さやか 山田 清香 さん (人文4年)



澄み渡るような声で歌う山田さん

メロディーやリズム音が渦巻いていた。その中を歌ういつもの声は反響し、会場には歌声の層かな女性の高音が……。

声の主は、山田清香さん(人文4年)。つばきはカピオホール(つくば市竹園)で昨年12月に行われた本学のアカペラサークル「Doo-Wop」クリスマスライブのことだ。

「Doo-Wop」内の2グループに所属して出場し、両グループとも最終選考まで残った。今回、最終選考は12グループしか選ばれなかったうえ、その中でただ一人「複数のグループに所属した歌手」として注目を集めた。

アカペラに魅せられた4年間 すべての経験を糧に

「100人以上のサークルで、最高のグループを組むことは難しい。相性が良い歌声を探し出すだけ

でなく、一人ひとりの音楽に対する趣向の違いも考慮すべきだから。人間関係に悩み、サークルをやめようと思ったこともあった。

だが、卒業を前にこう思う。「念願だったJAMの舞台に立ったとき、これまでアカペラを通して出会った人々の顔を思い起こした。さまざまな出会いの中で自分の軸を模索し続けたことが、この舞台につながった気がした。この世に無駄な経験など何一つない。「サークル活動はいつも私の中心にあって、自分探しの原動力だった。有意義だった4年間」を語る山田に、穏やかな笑みが浮かんだ。

卒業後も、勉強の日々が続く。「表現することが好き。だから将来どのような道に進もうとも、音楽や人との出会いを大切にすることで、他者の心を満たせたら」。

うちわ話

☆引退記者からひとこと☆
☆入部から引退まで、話題に事欠かなかったおかげで大学の隅々まで探検できた気がする。今後そんな大事、廃部の危機(?)も乗り越え成長させてもらいました。バトンをつないでいってください。(裏番自称)▼大学新聞で2年、そしてベトナムへ。それも同僚、先輩達との時間があってこそ。皆に感謝! H en gap lai。(また会いましょう)(異国から徒然)▼記者活動を思い出すと、1年間はもう引退。1年間はもう引退。1年間はもう引退。

次号は

4月8日(月)

発行予定です

応援団 WINS 「桐華祭」



団員たちの華麗なパフォーマンス

3面へ

全日本インカレ



提供=男子バレーボール部

相手のブロックをかわし、スパイクを放つ李

8面へ

第18回全日本ラート競技選手権大会



表彰台で健闘をたたえ合う松浦(右)と堀口(左)

9面へ

東北3県柔道指導キャラバン



指導中、笑顔を見せる子供達と武井(右)

10面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活